

上十条における路地園芸の実施

1) トライアルの目的

路地(街なかの昔からの狭い道)のある街の多くは、安心して暮せるコミュニティが育っている。商店街では、狭い道に並ぶ店が賑わいある界隈を生み出し、住宅地においては子供の安全な遊び場であり、住民たちの井戸端会議の場であり、暮しの場の延長である。

その街で生活する人々の息づかいが聞こえてくるような路地は、日本の都市の原風景のひとつであり、その路地の鉢植えや見越しの松などは、路地の景観構成要素として大きな役割を果たしていると考えられる。また、都市の環境要素としても大きな役割を果たしていると考えられる。

江戸時代には、庶民の中に園芸文化が根付き、庶民の中から新品種を生み出すなど文化的にも高い水準にあったといわれている。

私たちは、この江戸園芸文化を踏まえて、路地の園芸を推進するとともにその技術を高めることによって、都市の原風景の一つである路地景観の向上をめざすとともに、路地発信の文化を育成していきたいと考えた。

本トライアルは、「東京都北区上十条一丁目西町会」及び「十條あすみの会」の協力のもと、北区環境課及び(財)北区まちづくり公社の後援を得て行った。主催は「東京都北区上十条一丁目西町会」と「十條あすみの会」及び「全国路地のまち連絡協議会」の共催とした。

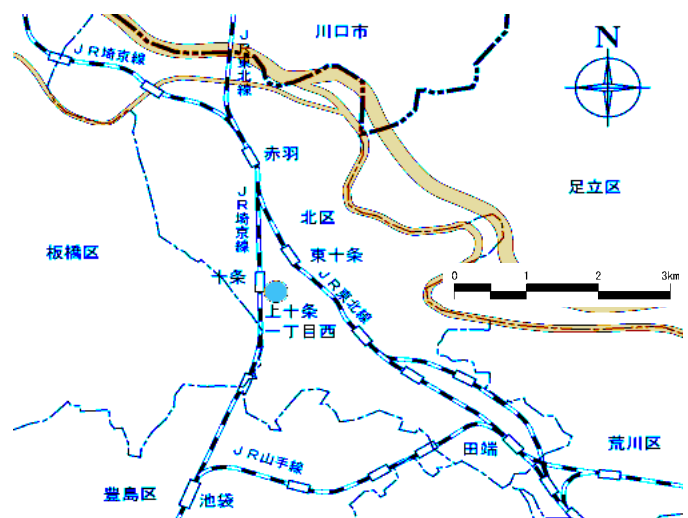


2) 対象地区

本トライアルは、「東京都北区上十条一丁目西町会」会員及び「十條あすみの会」会員を中心として行った。対象地区は「東京都北区上十条一丁目西町会」全域とし、実践トライアルは対象地区内の路地とした。

1) 十条地区の位置

対象地区が含まれる東京都北区十条地区は、東京区部の北部に位置し、JR埼京線十条駅を中心とした地域である。十条地区は、JR埼京線十条駅から池袋に2駅7分、新宿に11分、渋谷に17分となっている。また、隣接するJR京浜東北線東十条駅からは東京駅に23分と都心部に非常に近接した地区である。



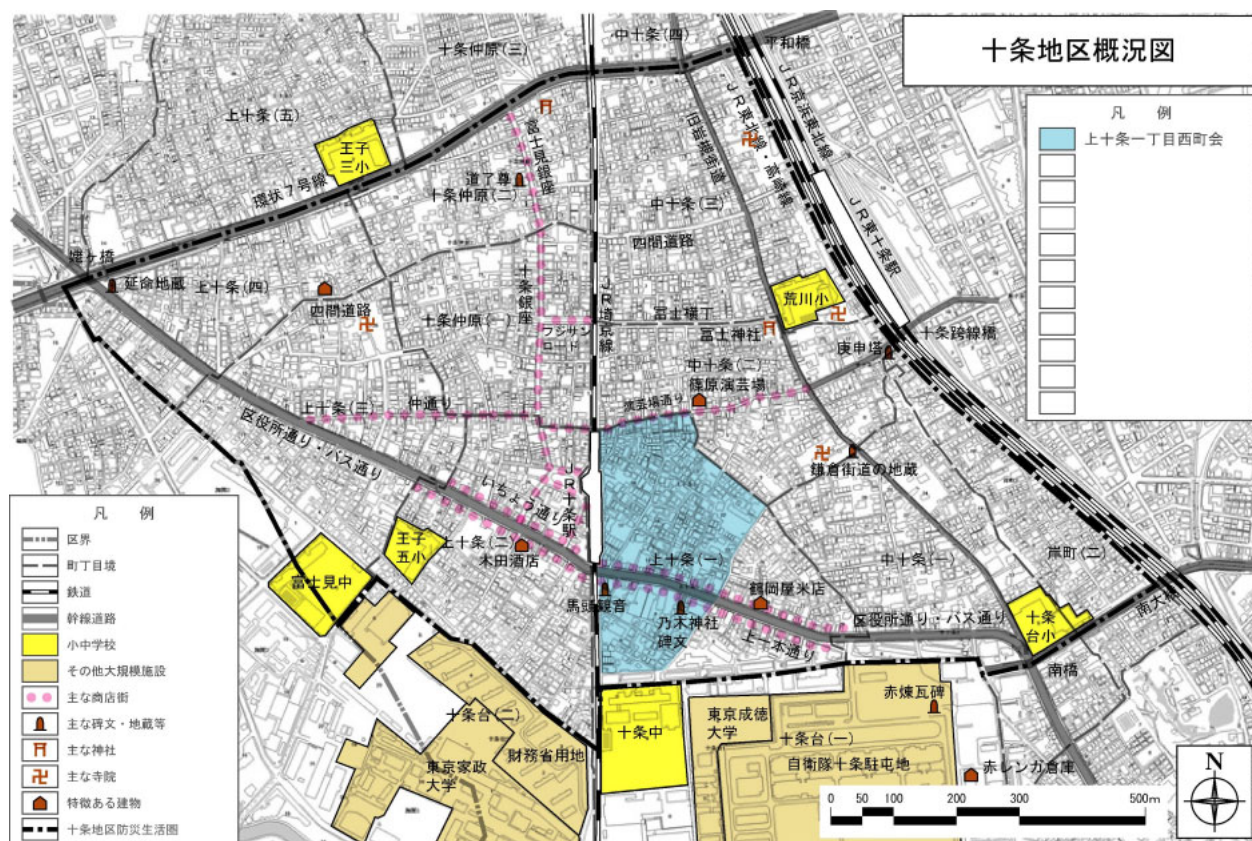
2) 十条地区の概況

十条地区は、東京の環七沿いに広がるいわゆる「木造密集市街地」の一つであり、4m未満の狭隘道路を主体とした脆弱な都市基盤の上に、木造住宅が密集している地区となっている。このため、十条地区では、十条地区 95ha(下図参照)において都の防災都市づくり推進計画(旧防災生活圈促進事業)が進められているとともに、密集事業(住宅市街地総合整備事業：上十条三・四丁目地区、上十条一丁目・中十条一～三丁目地区)などの密集市街地を改善する事業が展開されている。

また、十条地区の南側及び東側JR東北線沿いは崖地となっており、十条地区そのものは台地上に位置している。特に、南側崖沿いの地区は、旧陸軍に利用された大規模用地であり、現在は学校や公園、財務省用地、自衛隊十条駐屯地等が立地しており、これら一帯が都指定の避難場所となっている。

十条地区には、その周辺も含めて大規模な商業施設の立地がなく、十条駅を中心としていわゆる近隣型の商店街が縦横に発達し、賑わいのある商店街となっている。

なお、地区の東側に隣接する東十条地区は、JR東北線と崖により分断され十条地区とは別の生活圈となっている。



） 3） 上十条一丁目西地区

今回のトライアルの対象地区である「上十条一丁目西町会」は、JR 埼京線十条駅の東側に隣接する町会である。また、まちづくりに対する意識と理解の高い町会である。

これまでに、防災マップの作成、広場等整備のワークショップ、防災広場やまちづくり用地の自主管理、商店街道路のプランター花植えなどを行っている。また、この町会を母体として、地域が安心して住めるようにと、防災・防犯ボランティア団体「十條あすみの会」を結成し、会員は周辺の町会に広がっている。この地区では、上十条一丁目西町会と上十条一丁目本通り商店街及び十條あすみの会が密接に連携してまちづくりを進めているとともに、十条地域のまちづくりイベント「十條遊縁市」の運営の中心的な役割を果たしている。

上十条一丁目西町会およびトライアル対象路地等の範囲・位置関係は下図の通りである。



3) トライアルの方法

本トライアルは3回のワークショップで構成した。

1) 第1回ワークショップ

江戸における庶民の園芸文化について、賀来宏和氏(都市環境プロデューサー:(株) グリーンダイナミクス代表取締役.)を講師に迎えて「江戸の園芸を知る」と題して講演を行った。

この目的は、一般市民の活動を高めることによって世界に誇れる文化になることを認識してもらうとともに、まちの視点で園芸などを考えてもらうきっかけづくりにおいた。また、質疑応答において、知っていたつもりの園芸手法等の再認識を促し、当ワークショップへの興味を増すことを図った。

2) 第2回ワークショップ

上十条一丁目西地区内を「路地園芸探検」と題して歩き、地区内の園芸の状況を視察した後、トライアル対象路地を視察し、実際の園芸方策について、参加者により議論した。

路地園芸探検においては、近所の園芸を知ることにより、単独で行っている園芸をネットワークする機会の提供を図った。これにより、住民相互の園芸に関する情報交換を促し、園芸技術の向上につなげていく。

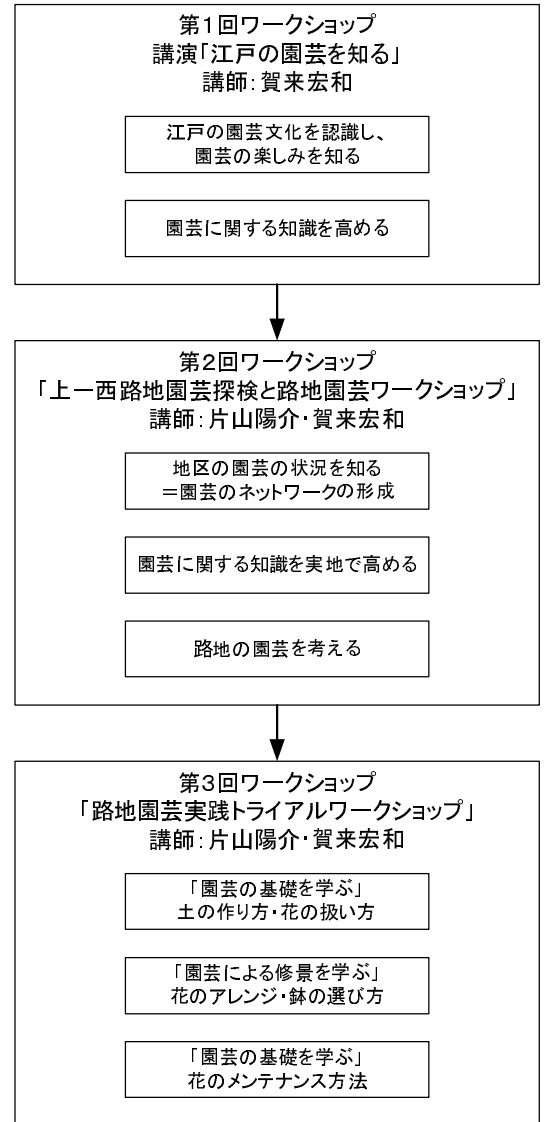
また、トライアル対象路地についての修景方策について、講師を交えながら住民同士で意見交換しながら試行錯誤を行った。

3) 第3回ワークショップ

第2回に検討した修景方法を実践した。

最初に、今回選んだ花の特徴や取扱について講師より学び、講師の植え方の見本を参考に、住民自身により実際に植え付けや鉢植えの修景等を行った。

最後に、住民の園芸作業について講師より問題点等の指摘を行い、今後のメンテナンス方法について意見交換を行った。



実施フロー

4) 第2回ワークショップにおける参加者提案)

●高尾班の提案 (ポストイット)

J コーポ周辺)

- ・ブロックの上に花を並べる)
- ・朝顔などのツル物
- ・トラックが入る(引っ越しのじやまになる)
- ・”はじ”を少しアスファルトを止めて”砂利”
- ・黒で統一 木枠
- ・2m位ハンギング

T 邸周辺)

- ・土の入れ替えしよう)
- ・土が固い ※石炭ガラ
- ・陶器、磁器がいい

Y 邸周辺)

- ・セットバックしているので、(黒のフェンスに合わせて黒い台の上に鉢))
- ・移動しやすいものにする。板は2つに。

H 邸周辺)

- ・半透明、向こうが見える)
- ・敷地内に花を

井戸周辺)

- ・井戸の隣にポイントになるものを)
- ・花だけでなく、道具も置くと絵になる

その他)

- ・日照が限られている、葉物か。)
- ・きっちり置くときれい

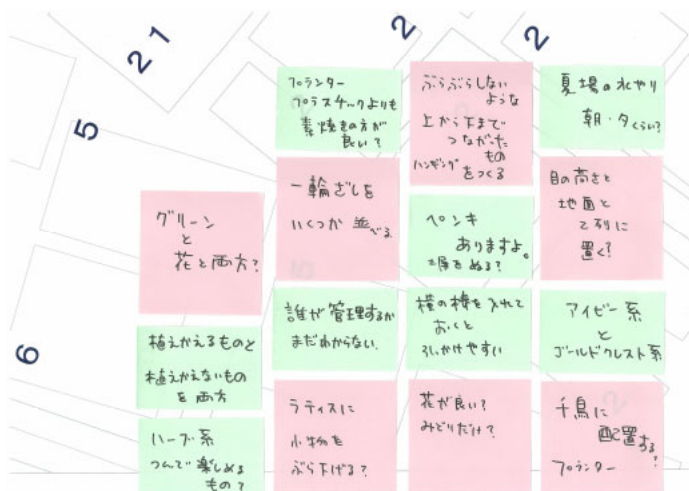


● 沖田班の提案 (ポストイット)

J コーポ前)

植え方)

- ・目の高さに3~4つプランターを並べる
- ・目線のところと下との2段にする
- ・塀につるだけでは危ない?
- ・塀から下げた時危ないので、下も固定
- ・千鳥に配置する?
- ・特注のハンガーで
- ・ラックに横の棒を入れておくと引っ掛けやすい
- ・ラティスに小物をぶら下げる?
- ・一輪挿しをいくつか並べる



植える植物)

- ・朝顔などは終わった後次が問題)
- ・花が良い? 緑だけ?
- ・アイビー系とゴールドクレスト系
- ・グリーンと花と両方
- ・植え替える物と植え替えない物を両方
- ・ハーブ系、摘んで楽しめるもの?



植える鉢、プランター)

- ・小さなポットは夏の磁器や植える物が大丈夫?)
- ・プランターの幅は両脇の電柱分くらいなら邪魔にならない
- ・あまり大きな物は手入れに大変
- ・プランター、プラスチックよりも素焼きの方が良い?

管理)

- ・夏場の水やり、朝夕2回くらい?)
- ・誰が管理するのか、まだわからない

その他)

- ・予算18万円のできるもの)
- ・塀をペンキで塗る?

5) 路地園芸の実施)

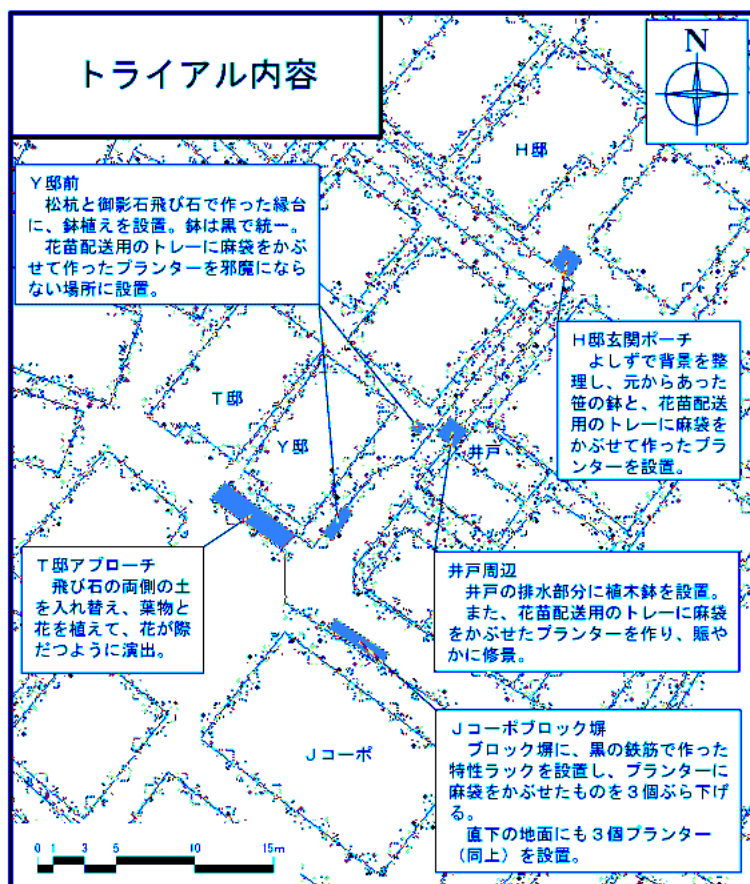
1) トライアルの従前従後

①基本的な修景の方向について

第2回ワークショップ終了後、ワークショップにおいてで体験を踏まえて、実践トライアルにおいてどのような修景を行うか、講師、事務局、十條あすみの会主要メンバー及び公社スタッフで協議した。

修景の方向性としては、以下のことがあげられた。

- 景観上好ましくないものを園芸によって修景するーJコーポブロック塀、井戸周辺
- アイストップとなる部分を修景する
井戸周辺、H邸前
- 景観を整理するー 井戸周辺、H邸前
- 今の景観を活かす・レベルアップする
Y邸前・T邸アプローチ



）②従前従後

i J コーポブロック塀

《現況》

J コーポブロック塀は、ブロック塀の修景を目標としたが、下記のような問題点が考えられた。

- 塀につり下げの方法は地震などに際して塀が倒壊するのではないか。
- アパートの引越やその他工事車両等、車両がブロック塀の途中まで侵入してくる。
- ブロック塀の路地の奥側に、電柱が立っていることと、塀の裏側に物置があり、塀に何らかのものを取り付ける場合、若干入口側に寄せなくてはならない。

《修景の方向》

ブロック塀に特注ラックを設置し、プランターや鉢を置く。

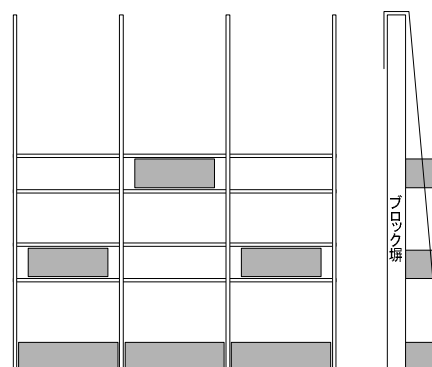
- 塀につり下げるラックを町内の鉄工所に依頼し、特注で作る。ラックに、プランターをぶら下げるハンガーをかけ、そこにプランターを設置する。

ラックは転倒しないように、電柱の幅と同じ長さで足を出し、塀によりかける。

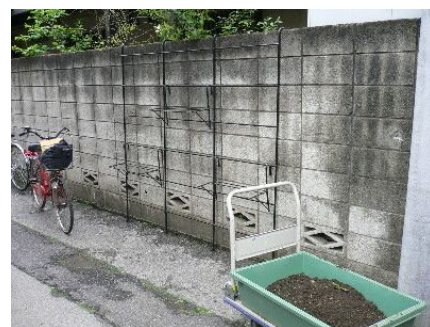
- プランターは白色ではないもの、できればテラコッタ製のものが良いが、重量と価格の面から白色のものにコーヒーマグを巻き付ける。
- プランターは、3台ぶら下げ、地面にも3台置く。



ブロック塀従前



ラックのイメージ図



鉄筋で作ったラックを設置

《修景の実践》

- 特注ラックは鉄筋で作成し、足を出すものではなく、地中に埋めて安定性を高めた。
- プランターは白色(北区十条まちづくり担当課提供)のものに、コーヒー豆専門店より無償提供を受けた麻袋で装飾した。麻袋は端部を花の形に折っている。
- ラックの黒とプランターの麻袋が目立たないため、葉の緑と花の色を引き立てている。



プランターに麻袋を巻く



ラックにプランターを設置



T 邸アプローチ

《現況》

幅員 0.8mほどの玄関アプローチに敷石が並べてあり、その敷石の両側に桜草などが植えてあり、現況においても美しいアプローチとなっている。

しかし、土がやせていることに加え、その下部は石炭ガラとなっていることから、その改善が求められる。



《修景の方向》

- 土を 10 cm程度入れ替えて、土壤改良する。
- 葉ものと花ものを組み合わせて、より豊かなアプローチとする。

従前

《修景の実践》

- 土を 10 cm程度除去し、新たに培養土が6、完熟腐葉土が3、完熟牛糞堆肥が1で混ぜた土を入れる。(他の鉢やプランターも同じ)
- タイム等の地被植物を植え、葉物を加えることにより、豊かさを演出できたとともに、葉の緑が花の色を引き立てている。



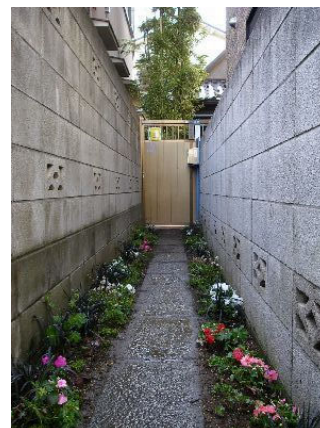
土を入れ替え



植物を仮置き



一斉に花植え



完成

iii Y邸前

《現況》

大理石様のブロック2段積みの上に黒いフェンスが設置されており、シックな雰囲気形成している。2項道路は後退済み。すっきりしているがうるおいがない。

《修景の方向》

T邸と井戸をつなぐポイントをつくる

- 2段積みのブロック部分に収まるように、門扉を挟んで2箇所到低い縁台を置いて、その上に鉢を並べ、フェンスの冷たい表情を緩和する。
- 縁台はフェンスに併せて黒とし、足は石などを使って大理石様のブロックに併せる。
- 鉢(陶器、磁器、素焼き等)に花を植える。鉢カバーをつくる。鉢は統一する。

《修景の実践》

- 路地の奥側の縁台は、居住者が自転車等を置くことがあり取りやめ、足の石は2段重ねとし、縁台の板は1枚は背板として活用した。
- 縁台の板は焼き杉杭の先端をカットして4本を束ねたもの。カットした先端部分は、焼いて色調を整えた。足の石は庭の飛び石用の丸井大理石を用いた。
- 鉢は色を黒で統一したが、大きさは植える花に合わせて統一はあえて避けた。一部、輸送時に欠けた鉢があったが、垂れ下がる葉ものを植えて活用した。
- 奥側の縁台が設置できなかったが、一番奥に花輸送用のトレーに麻袋を巻き付けたプランターを作成し、置いた。



従前



縁台を2台設置したところ



実際の設置状況、縁台の板1枚は背板に、足は2段に



Ⅳ 井戸周り

《現況》

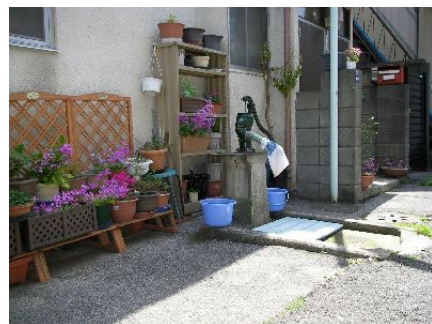
通行人の視線を集めるポイントである。視察時点からはかなり整理され花も咲いているが、まだ、空の鉢や園芸の道具が置かれていて煩雑なイメージ。

《修景の方向》

- 井戸の横にポイントになるよう大きめの鉢を配置。
- 建物の棚に園芸を楽しんでいる感じを小物で表現。

《修景の実践》

- 井戸の脇に大きめの鉢(ナスタチウム)を置くとともに、苗の入っていたトレイで作ったプランターも配置。(その後地元住民により一部鉢を入れ替え)
- 建物の棚については、プライベートな部分なので今回は手を加えない。(今後の展開に期待)



従前



従後

←トライアル終了直後
1ヶ月後→



)

v H邸前

《現況》

路地の突き当たりであり、アイストップとなる重要な位置を占めているが、色々な植物や生活用品が置かれ若干乱雑な景観となっている。

《修景の方向》

- すだれなどでプライベートな部分と緑をみせる部分を隔てる。
- 現在、葉物だけであるが色のある植物を配置する

《修景の実践》

- よしずを立ててプライベートの部分を隠す。
- よしずの手前に緑の笹(既存)と、色が際だつ花もの(新規)を置いた。



← 従前



従後 →

2) 路地園芸トライアルのまとめ

今回のトライアルを終えて、以下のような成果と課題を得た。

Ⅰ ①成果

- まちづくりに関心の少ない住民のまちづくり活動への参加の契機
一般的にまちづくりに関心を持っている住民は少ない。今回、園芸を切り口として、まちづくり活動や日常的な町会活動に参加する機会が少ない住民が、まちづくり活動のフィールドに参加する契機を提供できたと考える。
- 異分野交流
前項に関連しているが、まちづくりと異分野の専門家とのタイアップによるまちづくり活動へのアプローチ方法を提供できたと考える。
- 身近な修景方策のプレゼンテーション
今回のトライアルは、大きな予算をかけずに実施しているとともに、身近な材料を活用して修景を行っている。参加した住民からも、こんなにきれいになるとは思わなかったという感想が聞かれるとともに、通りかかる人からきれいになったねと声をかけられるそうである。
- まちの視点からの園芸
 - Ⅰ 園芸を個人の楽しみとして行っている住民は多い。しかし、今回まちからの視点に立って園芸を行った。その結果、通りかかった住民からきれいだと評価されたと、参加した住民から謝辞をいただいた。
- 園芸に関する技術・知識の普及
 - Ⅰ 路地園芸探検の結果からも園芸を行っている住民は非常に多いが、これらの住民は独学で行っている場合が多いと考えられる。今回のワークショップで、土の配合や太陽光の当て方、植え方など様々な園芸に関する講義あるいは質疑応答が行われた。園芸に関する技術や知識に対して、住民にニーズがあることが確認されたとともに、今回のワークショップで参加者に対して技術や知識の向上が図られたと考える。
- 園芸のネットワークの形成の土壌づくり
路地園芸探検により、同じ町内会でどのような園芸がされているかが、一部ではあるが参加者に認識された。町会では、町内の路地園芸マップの作成を模索するに至っている。こういった取り組みを機会に、住民相互の園芸に関するネットワークの形成が期待できる。

）②残された課題

○ 2項道路及び道路占有

）今回の路地園芸トライアルは、2項道路の問題や道路占有の問題を棚上げして行った。実際に路地園芸を実践した路地も2項道路であり、Y邸前は2項道路後退した部分に縁台を設置している。今回の配慮点としては、道路上に設置するのは、簡単に移動可能なものとして行った。）

○ 日常の園芸活動への対応

今回の花の種類の選定は専門家にゆだねた。このため、一般的に知られていない種類や、似通った名前の花など、参加者もわからなくなっているものも多い。このため、通りがかった住民への説明や、参加者の日常のメンテナンスなどが難しい場合がある。もう少し、身近な花などで行ったほうが、解りやすかった部分もある。

○ 四季の都市景観の演出

今回使用した花の種類は、植え替えなどの手間の少ない秋頃まで咲く花となっている。これに加えて、四季の花のアレンジや展示位置のローテーションなどを提示できると、四季折々に多彩な表情を見せる都市景観の演出を提示できたと思う。

3) 〕終わりに

）まちづくりの分野と園芸の分野の専門家とのコラボレーションによる、まちづくりへのアプローチを試行した。従来、まちづくりという場に参加しない住民の参加が見られたことから、一定の成果があったと考える。今回は、従来からまちづくりに理解のある上十条一丁目西町会で行ったが、まちづくりの土壤がない地域においての地元に入っていく一つの切り口を提示できたと考える。

ワークショップの実施においては、地元の十条一丁目西町会及び十條あすみの会の皆さんの積極的な参加がなくては実現しなかった。地元の皆さんのご協力とご理解に深く感謝します。

また、株式会社グリーンダイナミクスの賀来宏和代表取締役及び片山陽介氏には、大変忙しい時期に講師をお引き受けただけではなく、様々なノウハウの提供とともに、土づくりなどに一緒に参加していただき、大変感謝しています。

最後になったが、今回のトライアルを実施する上で、活動費を助成していただいた（財）都市化研究公室に感謝するとともに、北区環境課には当初予定より多くの花苗などを供給していただき感謝します。